



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一 氏

第 120 号

平成27年 3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

平成二十六年度を振り返って



栃幼連理事長 石嶋 勇

皆様の温かいご支援とご指導を賜り平成二十六年度が無事終わろうとしております。衷心より感謝申し上げます。

国会では、平成二十六年十二月十四日(日) 投開票で衆議院議員選挙が行われました。一年前の二十四年十二月十六日に行われた選挙に続き自民党が大勝しました。

これにより安倍政権は引き続き高い支持率で安定した政権運営を行っております。

マスコミは安倍政権が行う景気対策をアベノミクスとして取り上げ注目してきました。円はドルに

対し一〇円を超え、株価(日経平均)は一八、〇〇〇円を超える勢いで大都市では確実に景気の回復の兆しが見えてきた様に思われます。

さて、私たち幼稚園関係者にとつて大きな変革の時代に入りました。

子ども・子育て支援新制度が本年四月スタートします。文部科学省・厚生労働省・内閣府が連携しての制度設計を進めておりますが、公定価格などの重要な事項はまだ示されておらず、今後の発表を待たなければなりません。

次に「幼児教育無償化」につい

ては、全日私幼連として無償化実現に向けて強力に様々な活動を進めており、栃幼連も連携して活動しております。

栃木県への「予算要望」については、平成二十六年十一月に平成二十七年予算や政策に関する要望書を自民党政策懇談会にて提出。内容は運営費県単補助の増額等であります。

今後引き続き振興活動を推進してまいりますので皆様のご指導とご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成二十六年度を振り返って



文書学事課長 金田 繁夫

いよいよ子ども・子育て支援新制度がスタートします。平成二十六年度は、公定価格を初めとする各種情報が錯綜する中、施設型給付か私学助成か、また、認定こども園へ移行するか否かなど、各園におかれては、重大な選択を迫られた一年になったものと思います。

文書学事課においては、新制度に係る様々な情報を迅速・的確に提供するとともに、各園からの疑問や相談に対しては、こども政策課とともに積極的に対応してきたものと自負しているところであり、各園におかれても、現時点における最善の選択をされたものと思っております。

少子化の急速な進行や核家族化など、子供を取り巻く環境が大きく変化する中、子育て環境の充実に関する国民の期待は益々強まっております。国も子育て支援は最優先課題のひとつと捉えています。

そのような中、幼稚園は幼児教育の場としてはもとより、施設開放や保護者間の交流、子育てに関する情報の提供等、子育て支援の中核的施設として極めて大きな役割を担っていることから、県としては、幼児教育の振興と子育て支援の一層の充実に取り組んでまいります。

なお、子ども・子育て支援新制度の円滑な推進を図るため、新年度において、県の組織及び所管業務の変更を予定しています。具体的には、幼稚園業務を文書学事課からこども政策課へ移し、同課において、幼稚園、認定こども園及び保育所を一体的に所管することとしておりますので、御理解、御協力のほどお願いいたします。

設置者・園長研修会

研修1「事務連絡」

講師 栃木県経営管理部文書学事課
副主幹 古林 正氏

(1) 県に対する災害状況報告についての話があった。人的災害、物的災害に分けて話をいただいた。(2) 幼稚園における事故防止等について話され、もし事故が発生してしまった場合には事故発生報告の提出のお願いをされた。(3) 各種補助申請に係る注意事項として三点あげられ、概算払請求書における請求金額の誤り、わんぱく保育推進事業実施計画書における預かり保育時数の計算誤り、特別支援教育費補助金に係る医師の診断書添付にあたっての保護者の同意をきちんと頂いたうえで申請をしてほしいとお願いされた。(4) 幼稚園の耐震化について、全国平均と比べ栃木県は耐震診断・耐震化が遅れている。国庫補助を利用して推進してほしい。(5) 各種提出書類の提出期限を必ず守ってもらいたいとお願いをされた。(6) 冬季における園児の健康管理について、インフルエンザ等の感染症やノロウイルスといった食中毒の罹患者には出席停止の指示等、適切に対応し感染拡大を防いでいただきたいとの話をいただいた。



研修2「学校教育の課題」

講師 栃木県幼児教育センター
センター長 田淵 光与氏

課題1 組織作りの重要性

- ①縦の軸…Na2、Na3（ミドルリーダー）を育てる事が大切である。
- ②横の軸…全員が自分も経営の一翼を担っているという意識を持てるような工夫をする。話し合う時間と場所を確保し、園内の意識統一を図る。



課題2 学校評価への取り組み

多忙感の解消をするためのキーワード「選択と集中」について。

課題3 特色というのはどのように出すのか

教育目標の実現の中で、いろいろな要素が自然と反映されて教育課程が出来ている。今後、外からの風を入れる事が必要。

以上、学校教育をとりまく課題について、具体例を交えながら詳しい説明がなされた。

最後に、次年度に向けてという事で、五年目研修開始に関する説明・派遣依頼や、教育行政の動向についての説明があった。

研修3「子ども・子育て支援新制度関連」

講師 栃木県保健福祉部 こども政策課
副主幹 野口 善幸氏

平成二十七年四月よりスタートする新制度施行を間近に控え、新しい情報提供をして頂きました。①平成二十七年度予算案について 消費税アップの先送りから平成二十九年度の財源が平成二十七年に前倒しになって「子ども・子育て支援」の予算が大幅に増えたこと。



②公定価格に関わる調整課題について

現行の幼保連携型認定こども園が新制度に基づく幼保連携型認定こども園に移行する場合における施設長の人件費の対応について。

また、大規模園の実態を踏まえた加配加算の見直しは、栃木県からの要望により平均的規模を上回る園について、現行私学助成との乖離が大きくなるよう、算定上限を引き上げる事となった。

まだまだ、こども園に向けての疑問点や不安は沢山あるが、今回の研修会では良いニュースがいくつかあり一つの光が見えてきた様に感じる。

最後に「とちぎ子ども・子育て支援プラン」（仮称）平成二十七年三月についても話があった。

計画の基本方針としては「結婚、妊娠、出産、子育てを切れ目なく支える環境づくり」ということで県としても取り組んで行く様である。

研修4「幼稚園での事故防止」～社会の中の幼稚園の役割から考える

講師 ジャーナリスト/東京都市大学人間学部客員准教授
猪熊 弘子氏

事故防止の話を通して幼稚園のあり方や今後の考えをわかりやすく話して頂いた。

事故を起こさないために必要な事を確実に言い、毎日丁寧に同じことを繰り返すことが重要である。

一番怖いと思うことは「まーいっか」といって見過ごすことである。なれあい・慣習・思い込み・怠慢などはとても危険である。

十年間で百四十六人の子どもがなくなったがその中で七十五人が〇歳児である。〇～二歳児の死亡事故には特徴は、・午睡中・預けられてから短い期間で亡くなる・うつぶせ寝で亡くなるが多い。

事故が起きた時にどうするのかではなく、事故が起きる前にどうするかが重要である

大きな事故はなぜか園長がいない時に起こる。園長不在でも対応できるようにしていく必要がある

幼稚園のコンプライアンスは社会的要請に依って重要な存在の子供達をいかにそだてるかが求められる。世界に対して敏感に反応し、地域に求められる重要な子育ての支援する施設であることを理解してほしい

最後に子供の命を守るために必要な8つの事項と事故防止のために必要な事項を説明して終了した。





設置者・園長研修会

【期日】 平成二十七年二月十六日(月)
【会場】 二荒山会館(鶴の間)
【参加】 百二十九名
【内容】 「新たな幼保連携(認定こども園)に向けての人事・労務管理のポイント」～幼稚園の職員と保育園の職員は水と油なのか～

講師

岩井 正夫氏
特定社会保険労務士



「女性に輝く日本!」の取り組みとして保育所、保育士を増やすことを目指している。その影響で今後認定こども園移行にかかわらず、加盟園にとって人材難という大きな課題が想起される。園児の確保とともに、優秀な人材の確保と育成、長時間、土曜日開所等多様な働き方の教職員の定着にむけた取り組みが求められる。



本研修会では働きやすく、働き甲斐のある魅力ある職場づくりのため必要不可欠な、人事・労務管理について専門の岩井氏に講演をいただいた。

研修では、まず最近の一般企業で

おきている労使間のトラブルの例として、時間外手当の請求問題を取り上げた。幼稚園にとっても潜在的なことで、同様のトラブルを未然に防止するために、就業規則の整備、労働時間管理の徹底、残業許可制、固定的時間外手当導入等の必要なポイントを様々な事例、書式集等の資料に基づき説明をうけた。労働基準法の遵守を基本に、施設環境等の物理的ハード面のみならず、給料、労働時間、休暇の取りやすさ、教育研修による自己充実感、良好な人間関係等企業に順じたソフト面の充実を図ることが必要であると。

さらに、現在事業者や従業員に対する育児関連の給付金、育児関連の助成金等、育児仕事の両立を支援する国の政策が充実してきているので、各園がその制度を経営に活かしていくことも園経営にもプラスになると示唆した。

最後の質疑時間には、有給休暇や時間外手当に関する質問がありさらに理解が深まった。

今後、各園がより安定した経営を維持するために、今回の研修会が、人事・労務管理の整備に生かしていただけることを願っている。



資質向上選抜養成講座Ⅹ

第一回 七月十一日(金)

午後の部

講師 玉川大学教育学部
准教授 東一の江幼稚園



第二回 九月十八日(木)

午前の部

講師 公益財団法人
幼少年研究所 所員 兵頭 恵子氏



午後の部

講師 ジャーナリスト
東京都市大学 客員准教授 猪熊 弘子氏



第三回 十月二十五日(土)

午前の部

講師 宇都宮共和大学
准教授 高柳 恭子氏



午後の部

講師 立教女学院短期
大学幼児教育科 教授 鈴木 隆氏



第四回 十一月四日(火)

午前の部

講師 公開保育 愛泉幼稚園
「お店屋さんごっこに向けて」

午後の部

公開保育研究会
コーディネーター
今市中央幼稚園
大嶋 裕先生

釜井台幼稚園
山崎英明先生



(再)第一回 十二月十日(水)

午後の部

講師 足利短期大学講師
呑竜幼稚園 園長 小林 研介氏



以上の日程及びテーマにて講座が終了いたしました。第一回では台風の為、午前の部を延期せざるを得ず、受講者の皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

ですが、いずれの講師の先生方も熱意あるお話を頂き、受講者の先生自身の「質の向上」となったことは間違いなくと確信しております。また、公開保育にてコーディネーターをしていただいた今市中央幼稚園、大嶋先生と釜井台幼稚園、山崎先生は公開保育コーディネーターとして、全日が推進している講座にて学ばれております。各地区で行われている「公開保育」にてお困りのこと、相談等ありましたら、事務局へご連絡下さい。お力になれることがあるかと思っております。



(教育研究委員長 小倉 庸寛)



第六十二回 栃木県幼稚園教育研究大会



平成二十七年一月三十一日、栃木県総合文化センターにおいて『子どもの「今」に寄り添い、子どもと「未来」を気付き」を幼児教育を語り合い思いを共有し質を高めよう」という大会テーマのもと開催された。今年の大会は、関東地区教員研修栃木大会の開催と重なり、全大会のみの開催にもかかわらず、多くの参加者が集まった。

開会式は、知事の代理として金田繁夫文書学事課長、螺良昭人栃木県議会議長など多数の来賓にご出席を賜り祝辞をいただき、その後、教育功労者と永年勤続者の表彰も行われた。

開会式後は、大豆生田啓友氏による講演と、ケロポンスの公演が行われ、実りある大会となった。



講演会

「今、求められる保育の質」

玉川大学教育学部教授

大豆生田 啓友氏



大豆生田先生には、数年の幼稚園教員経験と、その後の様々な経験を生かして「質の高い保育」について、噛み砕いた楽しい語り口で講演いただいた。講演内容のポイントも、「子ども環境、遊び、そして保護者支援等」と、保育者たちが日々関わっている、わかりやすい切り口だったこともあり、先生の口から飛び出す一言一言に、会場には納得の渦が広がり、これからの保育の質の向上という難題にも、それぞれの立場で飛びつく事が出来た。

最後には、二十一世紀型の保育デザインを活かすには保育者に求められる事も多いが、保育者が自分自身を大切にしていれば、保育者自身が、また、子どもたちの笑顔につながるというすてきなメッセージもいただき、楽しくも身の引き締まるひとときとなった。



公演会

「ケロポンスのあそびネタセミナー」

幼稚園業界ではすっかりおなじみの？ケロポンスは、栃幼連の研修では久しぶりの登場。はじめて実物を目にする教員も居たことと思う。



お約束の観客いじりからはじまり、新人からベテランまで序盤から盛り上がり、一体感を感じるステージとなった。楽しいステージながら、歌やパネルシアターなどの相手を引き込むようなパフォーマンスは、明日の保育にすぐにも活かせるようなテクニックが満載。楽しいだけのステージでは無く、見方を変えれば「保育技術講習」となるような公演であった。



東日本大震災への義捐金
ご協力ありがとうございました
総額 83,197円

義捐金御礼

一月三十一日、栃木県幼稚園教育研究大会の折に「東日本大震災への協力をお願いしましたところ、八万三千百九十七円の善意が寄せられました。皆様からお預かりしました義捐金は、全額、公益社団法人福島県私立幼稚園連合会へ皆様のお気持ちと共に送らせていただきました。ご協力下さいましたこと、心より御礼申し上げます。そして、この機会に皆様へお礼申し上げます。」



栃幼連 スクールバス安全運転研修会

期日 平成二十七年一月三十一日(土)
会場 二荒山会館(鶴の間)
参加 百十九名
内容 スクールバスの交通安全教育
講師 宇都宮中央警察署
交通総務課
警部補 斎藤 大氏
栃木交通バス(株)
運行部長 石崎 隆英氏

※ヒトモ

第一歩として宇都宮中央警察署 交通総務課 斎藤警部補から事故の悲惨さの話DVDを交えながら講話を聞いた。交通事故は被害者においても加害者においても、とても悲惨なものだということと考えさせられた。第二歩は栃木交通バス株式会社 運行部長の石崎氏より講話をいただいた。幼稚園バス重大事故の事例や、事故の特徴と対策などの話を聞いた後、栃木交通バス株式会社の安全に対する報告、同社運航部乗務員の取組など、我々の参考になる話を聞いた。そのほかに加齢による運転への影響や、アルコールが運転に及ぼす影響などの話も聞き、改めて幼稚園バスの運転者が背負っている責任の重さを再認識したのである。日ごろの運転業務に反映されることが望まれる研修であった。



青年部県外視察

平成二十六年十一月十二日から一泊で福岡県にて県外視察研修が行われた。参加者は十八名。一日目は、北九州市にある「きのくに子ども村学園」北九州市子どもの村小学校・中学校」に視察した後、福岡市内にて「福岡県私立幼稚園振興協会」との交流会を行った。また二日目は、春日市にある「学校法人白水学園」くすのき幼稚園」を視察した。

一日目の北九州市子どもの村小学校・中学校は、一学年十二名の小さな学校で教育内容に特色があり子どもたちが自分たちの学習計画や行事の立案まで行っている。一人ひとりの興味を大事にし、同時に個性も尊重され広範囲にわたって様々な学習や活動を行なっている。教科書やドリルを使う勉強も行すが、それ以上に実際に体や頭を使い、物を作ったり調べたりする活動（プロジェクト）を重視し、カリキュラムの大半を費やす。「自己決定」、「個性化」、「体験学習」を



キーワードとして教育を行っている。子ども達は元気に活動しており、畑の開墾や木材を使つての屋外遊具作り、窯を使つての陶器づくりなどを行っていた。校長先生は全国にある学校を自分自身の車で一週間に一日ずつ各校を周られており、不在であった為副校長先生にお話を伺った。

その後、「福岡県私立幼稚園振興協会」との交流会を行ない、振興協会より幼稚園の園長先生や職員三十名余りの参加を頂き、交流を深めた。二日目は春日市にある「学校法人白水学園」くすのき幼稚園」にて視察を行った。横峯式をベースに独自の教育を行っていた。園長先生がホテルでの勤務経験があり、服装や生活態度、行事等、全ての事柄に対し明確化明文化をはかり職員と園の方向性を完全に一致させていることが印象的であった。また従来の横峯式に固執するのではなく、園長先生の理念に必要な部分は残し、教材など足りない所は自ら作り出し保育活動を行っていた。

今回の県外視察は、全く特色の異なる二園を拝見させて頂いたが、どちらの園も園長先生の強い思いが感じられ、今後の園運営に参考になった。

青年部合宿研修

平成二十七年二月十日、ホテル



ニューイタヤにおいて青年部合宿研修が開催された。今回は宇都宮動物園の園長荒井賢治氏をお招きして講演を行った。

園長自身の略歴として証券会社勤務中は現在の仕事とはかけ離れた価値基準で仕事をしてきたことについての違いをお話された。現在の動物園の理想と現実のギャップや、経営についてもお話しされ、他業種ではあるものの幼稚園経営に通じている部分も多くあるように感じた。

最後に危機管理について、グループに分かれ災害時に設置者と現場は何を行うべきか短期・中期・長期にわけディスカッションを行った。

なかなか動物園に行っただけではわからないような、苦労や取り組みを沢山聞くことができ、非常に興味深い研修になった。



講師

「なぜ、子どもを子育て支援の新制度が必要なのか？」の話しから始まった講話は、日々の保育に没頭していて新制度への動きがよく見えていなかった現場の先生たちにとってもわかりやすく、国の動きを理解できたと同時に、教育と保育の土台に関わる自分の立場の重要性と誇りを再認識する機会ともなった。

中山 昌樹氏



「すべての子どもの最善の利益のため」に、「現場で保育者に求められる視点」として、認定こども園あかみ幼稚園での実践例を含めながら、具体的に九つの視点を教わったが、既に各園で実践していることもあり、新制度に移行するといっても、それぞれの園が地域や親の必要性によって取り組んでいた内容がやっと制度化される、という印象を受けるものもあった。

時間帯や内容など、多様なポジションで働く職員間の連携をしっかりと取りながら、目の前の子どもたちとしっかり向き合い保育していくことが大切、と改めて感じられた講話だった。





平成27年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	平成27年度 予算額(案)	平成26年度 予算額	概要
1 幼稚園運営費補助金	3,917,961	5,763,147	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 183,300円(H26 181,100円) うち満3歳児 252,038千円(H26 411,279千円) 一種免許状加算分 1,022千円(新制度への移行園を対象)
2 幼稚園教材費等補助金	8,602	13,764	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成 園児一人当たり 39,100円(H26同額) うち満3歳児 587千円(H26 704千円)
3 地域子育て推進事業費補助金	151,360	329,770	
(1)子育てランド事業	31,880	32,330	幼稚園及び認定こども園が実施する①～⑤の事業に対する助成 ①子ども遊び場確保事業 ア 園地・園舎開放事業 イ 放課後児童クラブ事業 ②未就園児親子教室事業 ③幼児教育に関する各種講座開催事業 ④地域の子育て支援に関する情報提供・紹介事業 ⑤その他市長が定める子育て支援事業のうち、知事が適当と認めるもの A 上記のうち2事業実施 1園当たり 130千円(市町130千円以上の補助が条件) B 上記のうち3事業以上実施 1園当たり 200千円(市町200千円以上の補助が条件)
(2)わんぱく保育推進事業	119,480	297,440	私立幼稚園及び認定こども園が行う預かり保育事業に対する助成 ○通常分 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ○特定分(4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○長期休業分 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○休業日分 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	163,351	147,135	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 → 教職員標準給与額の27/1000(H26同率)
5 特別支援教育費補助金	471,184	438,256	特別支援を要する園児が就園する幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成 対象園児一人当たり 学法二人以上 784千円(国庫対象) (H26同額) 上記以外 392千円(県単)
6 私立学校教職員共済補助金(幼稚園分)	58,020	57,641	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(H26同率) ・対象者 2,721人(H26 2,690人)
7 栃木県私学団体補助金	6,000	6,000	
(1)栃木県幼稚園連合会補助金	3,000	3,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
(2)幼稚園特別研修費補助金	3,000	3,000	栃幼連が行う子ども・子育て支援新制度を踏まえた研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
8 私立学校被災児童生徒授業料等減免事業費(幼稚園分)	2,076	3,130	被災児童生徒に係る私学授業料減免事業に対する助成 ・対象者 20人(H26 32人)
9 幼稚園耐震化事業費	1,429,872	1,859,485	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率 1/2(安心こども基金活用事業)
10 幼稚園緊急環境整備事業費	48,257	58,440	○学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2 左記以外幼稚園 1/3 (国の交付金活用事業) ○認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2(国の交付金活用事業)
	6,256,683	8,676,768	

06

平成27年度予算案の内容について

「運営費補助金」について、県単補助の増額要望に対して現状維持に留まったが、国からの地方交付税の増額分が、そのまま園児1人あたりの金額に反映され前年比 2,200 円増という結果が示されたことは評価されるべきものと思う。

「特別支援教育費補助金」については、前年どおりと大変残念な結果となった。

認定こども園の場合、特別支援を必要とする子どもが2号認定を受けると私学助成の補助対象から外されてしまうという問題も明らかになったことから、幼稚園・保育園・認定こども園の全体での制度設計の見直しを期待したい。

教職員の退職金にかかわる「栃木県私立幼稚園振興財団補助金」について、幼保連携型認定こども園の全職員が補助対象となる方向が示されたが、幼稚園型認定こども園、学校法人が運営する保育所・認可外保育所も含めて加入者全員が対象となるよう、要望を続けていく必要がある。

振興委員長 馬場 章信



今年度も各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭研修を振り返って

昨年の十二月二十五日に、全日程が修了しました。集合研修、宿泊研修、地区研修、どの研修も受講生は熱心に学びました。閉講式での受講生の表情は、一年間の研修をやり遂げた達成感と自信に満ちあふれていました。受講生からは、「保育で悩んでいるとき、研修を受けて、解決のヒントが見えました」「これからますます学び続けたいと思いました」「グループ協議で意見を整理して発表できるようなり、自信ができました」「他の園の先生から、たくさん情報を得ることができました」などの感想が寄せられ、この一年で得たものを実感しているようでした。

ぜひ、研修の成果を園内研修等で、共有してください。今後の御活躍を心より応援しています。

幼稚園教職十年経験者研修が修了しました

幼稚園教職十年経験者研修(三十二名)の全日程(園外研修六日・園内研修十日)が修了しました。義務教育やその後の教育の基礎を培う幼稚園として、開講式・閉講式を、小・中学校、高等学校、特別支援学校の十年目研修と合同で実施しました。

今年度は、従来の「組織マネジメント」「幼児期から児童期への教育」「協同する経験とは」の講話・演習に、「幼稚園における特別支援教育」と宇大附属幼稚園の保育参観を通じた「教育課程と指導計画の実施と改善」の内容を加え充実を図りました。受講生の感想を紹介します。



お疲れ様でした。園のミドルリーダーとして御活躍ください。

同じような立場で、他園で頑張っている先生方と出会えてよかった。研修の全てが、私の力になった。

協議や演習が多く、自分の考えを効果的に発信する力が付いた。園内の会議でも積極的に発言できるようになった。

中堅教員として、若手を育てる立場であることも自覚できた。日々、勉強し続けていこうと思う。

スキルアップセミナーII

《発達と学びをつなぐ要録の作成と活用》

二月九日に、スキルアップセミナーIIを開催しました。



午前中は、幼稚園教育指導資料第三集・第五集の作成協力者である十文字学園女子大学の野口隆子准教授

から、「要録の意義と役割」をテーマに講話がありました。幼児理解に基づいた、日々の保育と記録とその丁寧な積み重ねが、要録作成の基本であるというお話をいただきました。続いて、幼児教育センターより、実際に要録を作成する演習を行いました。

研修者からは、「自分たちの保育や子どもの成長の様子を伝えられる要録をもっと大事にしたい」「映像や資料を通して他園の先生とそれぞれ違った角度から幼児を見合うことができて刺激になった」「その子の良さを書くというポイントが分かった」など、要録作成の重要性を再認識し、今年度の要録に生かしていこうという前向きな感想が多く寄せられました。

栃木県教育研究発表大会 — 幼・保・小連携部会 —

今年度の「幼・保・小連携部会」は、「幼児期の子育て支援・保護者支援と小学校のスタートカリキュラム」をテーマとして行いました。

★お願い★

前号でお知らせいたしました、次年度より実施する「**幼稚園教職5年目研修**」と従来より実施している「**幼稚園教職10年経験者研修**」の対象者及び受講者についての照会(文書)を、3月11日にセンターより発送いたします。

お手数ですが、文書が届きましたら、御報告をお願いいたします。



●発表者

足利短期大学附属幼稚園(足利市) 教頭 兵藤友妃子 先生
さくら市あおぞら保育園(さくら市) 保育士 八木澤令恵 先生
栃木市立小野寺南小学校 教諭 櫻井由美子 先生

足利短期大学附属幼稚園から、「幼稚園における子育て支援の取組」として、保護者の意識調査に基づき、「地域子育て支援講座」の開講や地域の外部人材の協力を得た「親学習プログラム」の実施等の実践発表をいただきました。

グループ協議を通し、就学を境にした時期に、子どもだけでなく、「保護者の安心もつなぐ」連携の必要性を共通理解しました。



学事だより

県文書学事課

各種提出書類について

●運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十七年五月上旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに平成二十六年年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

●教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十七年四月下旬（予定）です。

●運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに平成二十七年五月上旬（予定）です。

●平成二十六年年度決算書及び平成二十七年年度予算書の提出について

平成二十六年年度決算書及び平成二十七年年度決算書及び平成二十七年年度予算書の提出について

二十七年年度予算書の提出期限は、平成二十七年六月三十日（火）です。決算書（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園宛てに別途メールでお送りします。予算書も決算書標準様式と同様に作成してください。

●資産総額の変更登記届

平成二十六年年度決算に伴う資産総額の変更登記は、平成二十七年五月末日までに行い、六月三十日（火）までに登記済届を提出してください。

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

幼稚園業務の移管について

平成二十七年年度から幼稚園業務を文書学事課からこども政策課に移管することになりました。

これにより、こども政策課において、幼稚園、認定こども園及び保育所を一元的に所管し、子ども・子育て支援新制度の円滑な推進を図っていきます。

皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

平成二十七年 四月～六月までの事業予定

4月3日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）
5月15日	栃幼連 通常総会（26年度決算総会）
5月18日	※10年経験者研修（共通研修）
5月21日	※5年目研修
5月26日	※合同研修（幼・保小）
5月28日	※合同研修（幼・保小）
6月2日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月4日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月5日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月9日	※保育・教育課程研究セミナー
6月10日	※新採研 公開保育（全大附属幼稚園）
6月11日	※幼保小教職員相互職場体験研修（事前説明会）
6月12日	※新採研 公開保育（全大附属幼稚園）
6月16日	※新採研 公開保育（全大附属幼稚園）
6月18日	※新採研 公開保育（全大附属幼稚園）
6月19日	※トップセミナー
6月23日	※合同研修（幼・保小）
6月24日	※新採研指導者事前打ち合わせ
6月25日	※合同研修（幼・保小）
6月25日	※教頭・主任講座
6月25日	※は幼児教育センター事業

臨時総会予告

平成二十六年度 栃幼連 臨時総会

平成二十七年三月二十五日（水）
会場：二荒山会館

総会予告

平成二十七年 栃幼連 通常総会

（二十六年年度決算総会）
平成二十七年五月十五日（金）
会場：コンセーレ

編集後記

「どうして泣いているの？」と私。「なんだかわかんないけど涙が出ちゃうの」とA君。入園当初の懐かしい会話である。初めて家を離れて過ごす心細さが涙となってあふれ出ていた。今ではA君はもとより全園児が幼稚園生活を謳歌し生き生きと過ごしている。友達と関わりながら泣いたり笑ったり怒ったり…。すべての経験が血となり肉となり自己を育ててきた。毎年の事ながら、幼児期の成長の力強さに目を見張る。

元氣いっぱい成長してくれたことに「ありがとう」の気持ち湧いてくると共に、己の不十分さにチクリと心が痛んだりするこの頃。

特に最近の年長児に目を向けると、幼児体型から脱却し少年少女の表情である。やはり巣立ちの時を迎えたのだと実感する。今後の健やかな成長を心から祈りたい。

視界のすっきりしない「子育て支援新制度」に右往左往した二十六年度だった。大きな変化であるから、紆余曲折は当然かもしれないが、拙速感が拭えない。

来たるべき二十七年年度は、自然界も幼稚園業界も穏やかに推移してほしいものである。

なにはともあれ、本年度を無事に過ごせた事にホッと一息。光陰矢の如し。
（長内 郁子）